

令和2年度 第73回夏休み良書推薦運動

読書感想文コンクール

主催
協賛
後援

岩手県良書推進協議会
岩手県学校生活協同組合
岩手県小学校長会
岩手県学校図書館協議会
岩手県PTA連合会

目次

- 一 主催者・後援団体あいさつ
- 二 入賞者名簿
- 三 入賞者作品
- 四 審査を終えて
- 五 応募者名簿

審査員

大石善弘先生	近藤澄江先生	齋藤英明先生	島山明美先生	藤村由美先生	田代五月先生	大淵奈実先生	永井臣之介先生	杉浦美香子先生
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------	---------

講評をしつかり読みましょう

岩手県良書推進協議会 会長 大石善弘

新型コロナウイルス感染拡大防止のために、大変に残念ですが前回に続いて今回の表彰式も中止とさせていただきます。

表彰式は中止になりましたが、毎回入賞者作品に詳しく講評欄を付けて掲載しています。

講評は、審査員の先生の生きた指導です。

入賞作品を読んで自分の作品と比べてみてください。入賞に値する点はどこかよくわかります。よいところだけでなく不足のところはどこかていねいに教えてくれます。

低学年のみなさんにもわかるように講評にルビをふっています。

低学年の人は低学年の作品を読んでみましょう。中学年の人は中学年の作品を読みましょう。高学年の人は高学年のものを読みましょう。できれば実際に対象の本を用意して読むのが効果的だと思います。

私たち審査員は皆さんに読んでほしい本を何か月も時間をかけて実際に読んで選びます。それが課題図書になります。

指導の先生には「審査を終えて」の欄に是非一度目を通してほしいと思います。

八月から九月にかけて冬休み良書の選定作業をしました。老体に鞭打って読みました。

学校の二学期早々応募の作品が届き二日で読み終わりました。審査結果はご覧の冊子です。

今回は、講評の読み方について特にとりあげてみました。審査員の先生の心がよく書けていると思いました。

先が見えないコロナ禍がまだまだ続くでしょうが、今後もよい本に出あって賢く生きていける子どもたちを育てるお手伝いができる努力をしていきたいと思っています。

本のありがたさ

岩手県小学校長会 会長 太田勝浩
(盛岡市立中野小学校長)

第七十三回夏休み良書推薦運動読書感想文コンクールに、多数のご応募の中から審査の結果、栄えある賞を受賞した皆さん、家族の皆様大変おめでとうございます。

「人間は一生のうち逢うべき人に必ず逢える。しかも、一瞬早すぎず、一瞬遅すぎないときに。」という言葉があるように、皆さんは今回、素晴らしい本と出あうことができました。この出あいを忘れないために大切に読むために読書感想文を書きました。それが見事、賞に輝いたのです。しかし、皆さんが本との出あいからわずかな光や希望、夢などを見つけようとしなければ、このような出あいはなかったと思います。求める心がなければ何も起こらないものです。

私は十年前、岩泉町の小本小学校に勤務していました。岩泉町では唯一、海に面した海の幸が豊かなところでした。しかし、九年前の東日本大震災津波で大きな被害を受け、私は、家を失った子どもたちと一緒に避難所生活をしました。子どもたちの親は、毎日白おにぎり二個を持って被災地の片付けに向かいました。残された子どもたちは、テレビもゲームもない生活が続きました。そんな時、支援していただいた本と出あうことができました。つらい毎日を忘れ、主人公になり切り、本の世界に浸りました。子どもたちの心をいやしてくる本に感謝しました。あの時ほど本のありがたさを感じたことはありません。本は、子どもたちを別の世界へ連れて行ってくれるだけでなく、命や思いやりの心の大切さを教えてくれました。やりたくても我慢する心、つらいことでもやり遂げるがんばりの心を育ててくれました。

読書は心の栄養と言われます。これからも素晴らしい本とたくさん出あって、心をますます豊かにしてください。きっと皆さんの未来を明るく照らしてくれることと思います。

本との出会いをこれからも

岩手県学校図書館協議会 会長 中村雅彦

(盛岡市立向中野小学校長)

岩手県良書推進協議会第73回読書感想文コンクールに入賞された皆さん、おめでとうございます。皆さんには、今回の感想文を書くきっかけとなった良い本との出会いがありました。本を開いた瞬間に、本の世界に心を動かされて、自分の思いや感動を素直に表現したことと思います。その時の感動や思いは、あなたの感想文を読んだ人にも伝わりました。一冊の本から、感動が次々につながっていくことは素晴らしいことです。

おそらく皆さんは「本が大好き」な人ですね。私も「本が大好き」です。本棚に並んでいるだけの本は、ただの物でしかないのですが、表紙をめくり読み始めた途端に、自分が見たことも想像したこともない世界が一気に広がって夢中になってしまう、その不思議な感覚を味わうことができるのが、本が大好きな理由です。

さて、ある日新聞を読んでいたら、盛岡市出身の大リーガー菊池雄星さんの「本があるから今がある」「読書により、考える力がつく」という言葉が目に入りました。野球でも高いレベルになればなるほど、いろんな知識、いろんな角度からの情報、見方、物の捉え方がすごく大事で、本を読むこと、文章を書くことでその力を磨くことができるのだそうです。本が大好きな皆さんは、きっとこれからもたくさん本との出会い、内面の豊かな世界を広げていくことでしょう。

私は、新しい話題の本が所せましと並んでいる本屋さんも、人類の知が宝物のように眠り、改めて発見されることを待っている図書館も大好きな場所です。穏やかな空気感と本の香りがする雰囲気の中で、ページをめくるワクワク感や、本を読んでいる時の満たされた充実感も大好きです。家の中で過ごす時間や何げない隙間の時間の読書もいいですね。

これからもたくさん本との出会いが皆さんにあることを期待しています。

お祝いの言葉

一般社団法人岩手県PTA連合会 会長 田口昭隆

第73回夏休み良書推薦運動読書感想文コンクールに入賞された皆さんに心からのお祝いの言葉を申し上げます。

この夏休みは、新型コロナウイルス対策のため、いろいろと行動が制限されたことと思います。そんな中、皆さんは良書を手に取り、真正面から読書に取り組みました。そして、「自分自身」が感じたことや考えたことを、「自分自身」の言葉で表現してくれました。この「自分自身」ということが、とても素晴らしいことです。

現代の社会は様々な情報であふれています。そして、情報を手に入れる手段はたくさんあります。以前は新聞やテレビ、ラジオがその中心でしたが、現在ではインターネットを通じてパソコンやスマートフォンなどを利用する人が爆発的に増えています。

同時に、「活字離れ」を心配する声が高まってきましたが、パソコンやスマートフォンは様々な機能があり便利なので、「活字離れ」になかなか歯止めがかからないようです。

しかし、読書だけがもつ良さがあります。本の中の世界では、古今東西、いろいろな場所に行けます。いろいろな人物になれます。そして、いろいろな人の生き方にふれることができます。時には、自分とは違う考えの人に出会うこともあるでしょう。そこからたくさんのお話を学べます。このように、物事の見方や考え方を広く、深くしてくれるのが読書です。本の中には私たちが磨いてくれる宝物がいっぱい詰まっています。

これからもたくさん本を読み、心豊かで、様々な角度から物事を考えることのできる人に成長していくことを心から願います。お祝いの言葉とします。

令和2年度 第73回

夏休み良書推薦運動読書感想文コンクール

入賞者名簿

『』は図書名

〈最優秀賞〉

かぜのでんわ

『かぜのでんわ』

盛岡市立上田小学校

一年 土井尻 千紗

ハンカチがつないでくれたともだち

『ハンカチともだち』

盛岡市立桜城小学校

二年 海原 杏々実

ひ行きの安全をまもろう

『飛行機のサバイバル』

盛岡市立桜城小学校

三年 浅見 理空

日本の食料自給率を上げるには

『いただきます図鑑』

久慈市立宇部小学校

四年 滝澤 啓光

限界を乗り越えた先には

『アドリブ』

盛岡市立中野小学校

五年 小野寺 朝妃

本当の音楽とは

『アドリブ』

盛岡市立城北小学校

六年 山本 花音

〈岩手県小学校校長会長賞〉

おおきくなるのがたのしみ

『おおきくなるっていうことは』

一戸町立鳥海小学校

二年 山走 悠惺

みんなをすくうミルドレッド

『魔女学校の一年生』

盛岡市立向中野小学校

三年 小笠原 杏紗

自分の考えと向き合って

『ハロー、ここにいるよ』

一戸町立奥中山小学校

六年 釜石 知奈

〈岩手県学校図書館協議会長賞〉

うるさいアパートをよんで

『うるさいアパート』

一関市立川崎小学校

一年 千葉 利翔

たくさんのお手を通って

『いただきます図鑑』

紫波町立古館小学校

四年 櫻田 郁香

人間は人間、差別のない世界

『十歳、ほくは突然「敵」とよばれた』

軽米町立晴山小学校

五年 古館 和華

〈岩手県PTA連合会長賞〉

アパートのひみつ、みいつけた 『うるさいアパート』

宮古市立山口小学校 一年 箱 石 好 南

魔女学校の一年生を読んで 『魔女学校の一年生』

盛岡白百合学園小学校 三年 佐々木 千 紗

ヴァージルと私 『ハロー、ここにいますよ』

宮古市立田老第一小学校 六年 飛 澤 咲 良

〈優秀賞〉

やさしさ、つながったよ 『おかのうえのカステラやさん』

盛岡市立仙北小学校 一年 宮 城 理 愛

「ハンカチともだち」 『ハンカチともだち』

盛岡市立高松小学校 二年 田ノ岡 勇 信

幸せな命のバトン 『天国の犬ものがたり』

宮古市立山口小学校 三年 花 坂 明 香

あきらめないでがんばれば 『魔女学校の一年生』

一戸町立奥中山小学校 四年 猪 又 日 葵

勇気の橋を希望につなげて 『魔女の子ども』

宮古市立山口小学校 五年 箱 石 香 乃

「面白い」の条件 『落語少年 サダキチ(さん)』

久慈市立宇部小学校 六年 滝 澤 光 来

〈入選〉

おばけのじかんとんでみたい 『おばけかぞくのいちにち』

滝沢市立滝沢第二小学校 一年 八幡航 颯

思いよとどけ、前にむかつて 『かぜのでんわ』

軽米町立晴山小学校 二年 古館陽和

「おくりっこ」のこと 『さよなら、おばけ団地』

宮古市立千徳小学校 三年 星野夏希

す直で思いやりのある女の子 『なかなおりの魔法』

軽米町立晴山小学校 四年 古館透和

努力することの大切さ 『アドリア』

滝沢市立滝沢小学校 五年 寺田幸奈

ノーマンさんが教えてくれたこと

『十歳、ほくは突然「敵」とよばれた』

宮古市立田老第一小学校 六年 佐々木玄太

〈学校賞〉

盛岡市立桜城小学校

〈学級賞〉

宮古市立田老第一小学校 6年

〈佳作〉

がんばりやのまりいはずい

『ふたこのプリンセスときらきら星のバレリーナ』

滝沢市立滝沢第二小学校 一年 宮田 淑花

つながるでん話

『かぜのでんわ』

軽米町立軽米小学校 二年 荻谷 柊磨

大切ないのちをいただきます

『いただきます図鑑』

盛岡市立中野小学校 三年 押川 笑

食べ物から気づいたこと

『いただきます図鑑』

宮古市立田老第一小学校 四年 畠山 芽依

今度は私が傘になる

『晴れた朝それとも雨の夜』

宮古市立田老第一小学校 六年 吉水 愛莉

こんなにあったんだ、体の秘密 『からだのなかのびっくり事典』

宮古市立田老第一小学校 六年 政屋 煌

かぜのでんわ

盛岡市立上田小学校 一年

土井尻 千 紗

やまのうえに一だいでんわがありました。そのでんわは、でんわせんがつながっていません。もうあえなくなつたひとに、おもいをつたえるでんわでした。

たぬきのぼうやが、でんわをかけにきました。どうして、たぬきのおにちゃんともうあえなくなったのかなとおもいました。

つぎにやってきたのは、うさぎのおかあさんでした。うさぎのおかあさんは、うさぎのぼうやにでんわをかけていました。わたしは、かなしいおはなしだとおもいました。

そのつぎにやってきたのは、きつねのおとうさんでした。きつねのおとうさんは、きつねのおかあさんに、なきながらでんわをかけていました。わたしは、どんだんかなしいきもちになつてきました。

わたしにも、だいすきなのに、あえなくなつたひとがいます。それは、わたしのおばあちゃんです。だから、でんわをかけにきたみんなのきもちがわかるようなきがします。わたしは、おばあちゃんとあえなくなつて、じかんをもどしたいとおもいました。わたしが、うまれたころのげ

んきな、びょうきのないおばあちゃんといっぱいあそびたいとおもいました。このほんをよんで、またおばあちゃんとおはなししたいとおもいました。

わたしは、このほんのさいごのページが好きです。たくさんのおほしが、きらきらとかがやいています。でんわをしたみんなのおもいがとどいて、とてもうれしいきもちになりました。あえなくなつたひとをおもうきもちがあれば、てんごくまでみえないでんわせんがつながるのかもしれないとおもいました。

このほんをよんでから、じぶんであきばこをつかつて、でんわをつくりました。おばあちゃんのかおをかい、こころをこめてつくりました。わたしのおもいも、おばあちゃんにとどくといいなとおもいます。

(図書名「かぜのでんわ」)

〈講評〉

お話の順序に沿いながら、千紗さんの思いが変化していることがよく伝わってきましたよ。「かなしいお話」↓「どんだんかなしいきもち」と変化し、「わたしにも、だいすきなのにあえなくなつたひとがいます」と自分に引き寄せて書いていましたので、この感想文にどんだん引き込まれてしまいました。自分で電話をつくつたことも素敵ですね。おばあちゃんへの思い、届いていることと思えます。そして、この感想文によって千紗さんの優しくあたたかな気持ちがいよいよ多くの人に伝わったと思いますよ。

ハンカチがつかないでくれたともだち

盛岡市立桜城小学校 二年

海原 杏々実

私がこの本で一番好きところは、自分のハンカチはとくべつなんだと言うミヨンちゃんに、はるちゃんがどきどきしながら、「わたしのハンカチだつてとくべつなんだよ」と言いかえして、ばーん！と、小人のハンカチを広げて見せたところです。

なぜかというと、それまで、はるちゃんは、まりなちゃんやほかの友だちには、えんりよして言いたいことをあまり言えない子のようだったからです。一番なかのよさそうなまりなちゃんにもひみつにしていたふしぎなハンカチのことをミヨンちゃんには言えたので、私はうれしくなりました。言いたいことを言えるのが本当の友だちだと、以前、私の先生も言っていたからです。

もつとうれしかったのは、広げたハンカチの中の小人が花をもつてぴよんぴよんはねている絵を見た時です。まるで、ミヨンちゃんに「友だちになるう」と言っているようにみえました。ハンカチの中の小人は、はるちゃんの気もちがよく分かるから、ミヨンちゃんともつとなかよくなりたい気もちも分かったんだと思います。はるちゃんのピン

ク色の小人とミヨンちゃんのグリーンイグアナが、二人よりも先になかよくなっていたところでは、絵もとてもかわいくて、はるちゃんがおちこんでいた時、小人にはげまされた時のように、私もにこにこ顔になりました。

はじめてこの本をみた時、だい名の「ハンカチともだち」は、小人のことだと思っていました。でも、そうではなくて、『ハンカチ』がつかないでくれた」ともだち』ミヨンちゃんのことなんだと今は思います。

私にも、はるちゃんやミヨンちゃんのようなハンカチがとどくといいな。わたしの好きなものをあらわすハンカチだつたら、ネコとひまわりのハンカチかな。

(図書名『ハンカチともだち』)

〈講評〉

杏々実さんは、この本「ハンカチともだち」を讀んで題名の捉えが変わったのですね。「ハンカチの中の小人」から「ハンカチがつかないでくれたともだち」と讀みが深まっている点が見事です。それはきつと、登場人物の行動や会話を手掛かりにしながら作品を味わい、人物同士の関係にまで想像を膨らませて讀んだからでしょう。感想文の題名にも納得です。心に残った場面↓その理由↓自分の思い↓題名の捉え、と本の内容から自分の考えとつなげて述べている段落の作り方も上手です。

ひ行きの安全をまもろう

盛岡市立桜城小学校 三年

浅見理空

みなさんは、ひ行きにのったことがありますか。ぼくは、のったことがありません。でも、空こうに行つた時に近くでひ行きを見たことがあります。その時、ひ行きについてぎもんに思ったことがいくつかあります。

まず、四百トンもあるものがとぶなんて、しんじられませんか。ぼくは、きょうりゅうがすきですが、きょうりゅうでもっともおもしろいと言われているブラキオサウルスが八十トンです。そのブラキオサウルスよりもおもしろいものがとぶのは、げん実ではないみたいで、のるとしたら本当に安全なのか少し不安です。でも、この本を読んで、ひ行きには重力などの四つの力が作用していることと、ひ行きのバランスをくずさないように人や物のいちを調整することで、ほとんどつい落すことがないと分かりました。ぼくは、新かん線にのった時に、自由せきとし定せきのりょう方にすわつたことがありません。でも、ひ行きは自由せきがなく、せきが決められているから、バランスがとれて安全にのれるのだと分かつて安心しました。

ぼくは、新かん線にのった時、同じようにふ安になったことがあります。新かん線は車りょうがたくさんあって、しかも時そく三百キロメートルい上で走っているけど、れんけつぶ分が外れないのかが心ばいでした。でも、実さいに盛岡えきのホームではやぶさところまぢがれんけつする所を目近で見て、とてもしつかりれんけつしているのが分つたので安心してのれるようになりました。

次に、ヘリコプターのようにその場でとぶひ行きを見たことがな

いのでふしぎに思いました。その理由は、四つの力の中のすい力が空気を後ろにおしやつてとんでいからひ行きはヘリコプターのようにとんだままその場で止まれないんだと分かりました。つまり、ひ行きがつい落さないためには、前にすすむひつようがあるのです。

さい後に、客室じようむいんは、どことなく練をしているか気になっていました。中でも、九十秒でじよう客をひ行きの外にひなんさせるくん練におどろきました。じよう客の安全をまもるためにそういうくん練をしているのだから、ぼくがひ行きにのる時、自分たちの安全をまもるために出来ることは、学校で先生の話を聞く時のようにしつかりと客室じようむいんの話を聞くことです。安全にひ行きにのるためにぼくたちが出来る一番大切なことは、客室じようむいんの話を聞いて、正しく行動することだと分かりました。

ひ行きにのるのはきけんだと思っていました。けれども、この本を読んで空をとぶひ行きのしくみや客室じようむいんのくん練などについて知り、ひ行きは安全なのり物だと分かりました。安全にひ行きにのるためにさまざまな工ふうをしてくれる人たちに感じやしいつかひ行きにのりたいです。

(図書名「飛行機のサバイバル」)

〈講評〉

理空さんの感想文を読んでいると、文章全体から読書の楽しさが伝わってきます。前から感じていた飛行機への疑問が解決されていく楽しさ、知らなかったことを新たに発見するワクワク感が「おどろきました。」「分かりました。」という素直な言葉で表現されています。飛行機の重さと自分が知っている恐竜の重さを比べているところも感想の深さにつながっています。本で発見したことを理空さん自身の目や体で確かめる日が楽しみです。

日本の食料自給率を上げるには

久慈市立宇部小学校 四年

滝澤 啓光

「安心で安全な食生活を続けていくためには、食料自給率を上げていくことが大切」とはどういうことだろう。

日本の食料自給率は低くて、40%ぐらいしかないらしい。だから食べ物の半分以上は外国から輸入しているということになる。天ぷらそばの例が出ていた。大豆は7%、エビは6%、小麦粉は13%、そば粉は38%しか日本ではとれていないらしい。米は100%日本産だと思っていたのに、米でさえも97%だった。ほくは気になったので、家にあつたしょう油をかくにんしてみた。そうすると、原材料の大豆のらんにアメリカ・カナダと書いてあつた。他にもあるか探してみた。せんべいのうるち米にアメリカ、みそ汁の具のかんそうキャベツに中国、ひじきにかん国と書いてあつた。いつも買い物に行くスーパーも探してみた。オクラやかぼちゃ、パプリカやレモンも外国産があつた。値だんを比べてみたら、外国産の方が安かつた。中には日本産の半分の値だんで売られているものまであつた。でも、ほくの家では、値だんの安い外国産ではなく日本の物を買うようにしている。日本は、農薬の使用きじゅんがきびしいので、安心感があるからだ。

なぜ、それほど食料自給率が低いのだろうか。日本は小さな島国だ。面積の広い外国に比べて、農産物を育てることのできる平地が少ない。だから、農産物の種類も収かく量も少なくなつてしまふ。外国のように広い土地でたくさん作れば価格を安くすることができふ。面積のせまい日本では、どうしても価格が高くなつてしまふ。

日本の物を安くするにはどうすればいいのだろうか。それには、地産地消が大切だと思う。作っている人や場所もわかるし、ゆ送にかかる時間が短いとねん料を使わなくなり二酸化炭素のはい出を少なくできるので地球にもやさしいと思う。昔は、地産地消といえば無人はん売が多かつたらしい。でも最近では、スーパーや道の駅などに産直コーナーが増えてきている。道の駅は、その土地の特産品を売っているのだから勉強にも役立つ。給食でも地産地消をしている。こん立表を見ると、地元の食材が太字で書いてあるのだからわかる。ほくも学校できゅうりとピーマンとさつまいもを育てている。きゅうりはスーパーで買う物よりも、表面がチクチクしていて新せんだ。ものすごくたく育つて規格外野菜だけれど、みずみずしくてすこくおいしい。

食料自給率を上げるには、農業や漁業で働く人口を増やさなくてはいけないと思う。きかい化が進んで、昔に比べれば重労働ではなくなつてきていると思う。その他に、安定して収入を増やすことも大切だ。収入が増えれば働きたいと思う人が増えると思うからだ。

ほくはこれからも、日本の物をせっきよく的に買って、少しでも協力していきたい。

(図書名「いただきます図書鑑」)

〈講評〉

一冊の本で得た知識からどんどん疑問がわいてきて、進んで調べたり自分の考えをもつたり読書を発展させました。家の中の食品の生産地を調べたり、地産地消について考えたりしたことは、本に書いてあることの実感につながっています。給食などの身近な生活を本と関わらせて感想をもつこともできました。

啓光さんが読書によって学び、自分の生活について考え、自分自身を成長させていったことが伝わってくる感想文です。

限界を乗り越えた先には

盛岡市立中野小学校 五年

小野寺 朝 妃

「自分の限界を知る。そしてそれをこえる。」

祐司が何のためにフルートの練習をしているのか分からなくなっているとき、サンティニ先生から言われた言葉である。私はピアノを習っているが、難しい曲になるとあきらめたくなくなるときがある。だから、祐司の気持ちに共感しながら本を読み進めていった。

祐司は四年生の時、練習がたつくと曲を楽しむ余裕がなくなっていた。そのとき支えてくれたのは、すてきな仲間や先生たちだ。祐司がもし一人だったら、フルートは続けられなかったと思う。先生の情熱的な指導や、「音を楽しめ。そして客も楽しませろ。」という心にひびく言葉により、だんだん吹く楽しさを取りもどすことができた。そして、音楽の感動や、自分が表現したいことを思う存分実現できるためにはテクニクを身に付けなくてはいけないこと、そしてあきらめの境地に達するほど努力していないことに気づくことができた。そして見事に難しいオーディションに合格することができた。祐司は限界をこえることができたのだ。

自由という意味のラテン語「アドリブ」は、祐司の好きな言葉だ。「アドリブ」は、曲のイメージをふくらませて、表現を豊かにする。それは完璧とはちがいで、「そのしゅんかんの自分なりの」答えであり、音楽の「美」だと祐司は考えている。同じ曲でも同じ演奏は二度とできない。今まで私は音楽をこのように考えたことがなかった。祐司は、曲に対する想像を広げ、それを表現する力がある。私も、ピアノ教室で先生に

「曲のお話を想像して、弾きましょう。」

と言われる。なかなか難しい。しかし、曲の話をイメージすると、自分でも音色が変わるのが分かる。イメージすると、気持ちをこめて弾くことができ、先生にも、

「よくなったね。」

とほめられる。すぐには曲のイメージやお話は思いつかないけれど、これからも続けていきたいと思う。イメージをふくらませて、自分なりの「美」で曲を弾けるようになりたい。

自分の限界をこえるために努力をし、あきらめないで立ち向かうことで、乗り越える。そして次の限界がくる。「極める」というのはこのくり返しなのだと思う。祐司はたくさんの人や苦労に出会い、そのたびに一歩ずつ成長していくことができた。そして私の心も一歩成長することができたと思う。今までの私は、自分ができないことがあったらあきらめそうになったり、いやなことを後回しにしたりしていた。でも、この本を読んで、あきらめずに努力をしよう、心に決めた。なぜなら、自分の限界を乗り越えた先には、新しい楽しさや面白さ、自由があると学んだからだ。これは、音楽に限ったことではないと思う。私も、これから限界に出会うだろう。その限界に挑戦し続ける強い心で歩んでいこう。

(図書名「アドリブ」)

〈講評〉

この感想文は、随所に、祐司のフルートと朝妃さんのピアノという音楽による共通点が効果的に取り上げられています。そのため、祐司と朝妃さんが、よりよい生き方を一緒に求めて、響き合うように成長していく姿を観ているようでした。「限界」や「美」、「極める」など、抽象的な言葉が出てきますが、本の文章を基に、自分の言葉で解釈して読み込んでいて感心します。後半に書き進むにしたがって、力強さがぐんぐん増す文体に仕上がっています。

本当の音楽とは

盛岡市立城北小学校 六年

山本花音

この夏、生涯大切にしたい一冊に出合った。
『アドリブ』

次々とあふれるハーモニー。音楽に真摯に向き合う人々が奏でるさわやかな音色。まるで、コンサートで素敵な演奏を聴きながら、読書をしているような気持ちになった。そして、吹奏楽に取り組んでいる私は、深く考えさせられた。本当の音楽とは何か。

物語の舞台は、イタリヤ。フルートの音色に魅せられたユージは、未経験ながらフランキジャーナ音楽院の入学試験に合格し、練習に励んでいた。

吹奏楽団でトランペットを演奏している私にとって、うらやましい世界。しかし、常に、プロのフルーティストになれるのかという不安にさいなまれたり、友達との競争に自信をなくしたりするユージ。フルートを始めたときのとときめきがどんどん薄らいでいく姿に、私は自分を重ねた。今年、吹奏楽のコンクールがコロナウイルスのために中止となった。正直、自分がどこに目標をおけばいいのか、分からなくなった。

私は、トランペットを何のために吹いているのだろうか。コンクールで金賞を取るためだったのか。審査員に認められるような音楽を演奏するためだったのか。それとも、みんなよりも上手に吹くためだけだったのか。

しかし、マエストロ・ビーニの言葉ではっと気づくことができた。ミスをしないうようにびくびくしながら吹いていたユージに、

「音を楽しめ。そして客も楽しませろ。」

と、アドバイスをしたのだ。そうだ、それが音楽なのだ。音を表現するためには、テクニックは必要だと私も思う。そのテクニックを習得したものが、音を楽しむことを覚えたら、お客さんの心を震わせる音楽ができるのではないか。そして、それが自分の限界を超えるということなのだと考えた。吹奏楽コンクールが中止となった今こそ、胸に響く「音を楽しめ」という言葉だった。ユージも私も本当の音楽の楽しさに目覚めることができた。

そんなユージには、多くの応援団がいた。経済的な問題でフルートが買えなかったユージに、母親が勤務している店のオーナーである和田さん夫婦が中心となり、七千ユーロを寄付してくれたのだ。みんなの優しい気持ち伝わって、とても、温かい気持ちになった。そして、そこで演奏されたユージの音楽。自分がアレンジした曲の部分を、目の前のお客さんのことを考えながら、アドリブで演奏する姿は、とてもきらきらと輝いていた。ユージは、自分の限界を超えたのだと思う。

私の限界はどこにあるのだろうか。みんなと合わせる音楽が心から楽しいと実感するまで練習をすることではないだろうか。心から心へ伝わるものが、きっとあるはず。小学校生活最後の一年間。自分の限界を超えるまで、トランペットを吹き続けたい。

(図書名『アドリブ』)

〈講評〉

今年、各種のコンクール等が中止となり、花音さんも、吹奏楽に取り組み一人として、戸惑いを経験した一人だったのでね。本書のマエストロ・ビーニの言葉は、花音さんの心にも一石を投じました。本は、読み手の心に語りかけ、受け止める人には道しるべとなる言葉をくれます。そんなことが花音さんの洗練された感想文から伝わります。花音さんが、悩んで考えたり結論付けたりする過程を、多様な文末で表現され、読み手は感想文に引き込まれます。

おおきくなるのがたのしみ

一戸町立鳥海小学校 二年

山 走 悠 惺

ぼくははがぬけた。みんなよりぬけるのがおそかった。はがぬけたら、みんなに

「ようやくぬけたね。」

と言われた。ぼくのぬけたはは、赤ちゃんのはということがわかった。つぎに生えてくるのは大人のはだ。はがぬけてしんぱいになったけど、この本を読んで、おおきくなることだとわかった。

はがぬけたとき、少しいたかった。でも、いたくないふりをした。がまんした。がまんできるのもおおきくなるってことみたいだ。

ぬけたはを見たら、小さかった。もう、大人のはが生えはじめた。大人のはは大きい。ぼくの体もこれからおおきくなっていくのかもしれない。いままで、おおきくなるってどんなことか考えたことがなかった。ぼくは、少しずつ大人になっているんだ。

ぼくにはおにいちゃんがいる。おにいちゃんはぼくよりできることが多い。はしるのがはやいし、およぐのだったうまい。どうしたらおにいちゃんみたいにはやくなれるの

かなと思った。おにいちゃんはいっしょけんめいれんしゅうしている。がんばることができるようになるのもおおきくなることかもしれない。いまはおいこせないけど、いつかおいこせるようになりたい。ぼくにはいもうともいる。いもうとはかわいい。ぼくより小さいし、お世話したくなる。小さい子にやさしくするのもおおきくなったことみたいだ。

この本を読んで、おおきくなるということは、たいせつなことなんだと気づくことができた。そのために、ごほんをいっぱいたべてきらいなものもたべるようにしたい。たくさん考えて、あたまやこころもよくしたい。いろんなことをしないととおおきくなれないと思う。おにいちゃんもぼくもいもうとも、これからおおきくなっていく。みんな大人になっていくのがたのしみだ。

（図書名「おおきくなるっていうことは」）

〈講 評〉

自分の体験を語ることから始まるこの文章に、あつという間に引き込まれてしまいました。歯が抜けたこと、我慢すること、努力、お世話…その一つ一つに悠惺さんの具体的な体験や思いが書いてあり、絵本に書いてある短い文と自らの生活を結び付けながら豊かに読んでいるなど感じました。そして「おおきくなる」ことは「大きくなる」こととは同じではないのですね。あえて平仮名を使い、「おおきくなる」ことの意味を広げている読み方もすばらしいです。

みんなをすくうミルドレッド

盛岡市立向中野小学校 三年

小笠原 杏 紗

ミルドレッドがした失敗はそんなに悪い事なのかな？わざといじわるをするエセルの方が悪いと思うのに、おこられるのはミルドレッドばかり。私は、この本を読みながら心がモヤモヤしてしまいました。

カッタル魔女学校に通っている一年生のミルドレッドは、少しうっかり屋さんで失敗する事が多い女の子。ハロウィーンのもよおし物をだいたしにした時も、先生におこられ、クラスの友だちにも口を聞いてもらえなくなりました。でもそれは、ミルドレッドのせいではなく、いじわるなエセルがミルドレッドが使うほうきにまほうをかけたせいでした。ミルドレッドは、おこられるのがこわくなり学校から逃げ出してしまいました。そのと中の森で、悪い魔女たちがカッタル魔女学校のみんなをカエルにしようとする中、悪い魔女たちを知り、ミルドレッドは学校のみんなを守るために悪い魔女たちをカタツムリにして、カッタル先生に教えるために学校にもどりました。このカタツムリが悪い魔女たちだと、はじめは信じてもらえませんでした。ハロウィーンでの失敗も本当はエセルのせいだと、先生もクラスの友達もわかってくれました。

ミルドレッドは学校から逃げ出す前に、どうして本当の事を誰にも言えなかったのかなと思いました。私は、先生やクラスの友達、仲良しのモードまでがおこっていたからなのかなと思いました。誰か一人でもミルドレッドにやさしく声をかけてあげていたら、ミル

ドレッドも本当の事を話していたかもしれないし、にげ出すこともなかったのかもしれない。それでも、みんなを守るためにミルドレッドがしたことは、やさしくて勇氣ある行動だなと思いました。

私もミルドレッドと同じで失敗することがあります。お母さんと買い物に行った時、食材を買い物ぶくろに入れようとしてまちがって、床に落としてしまった事がありました。私は悪いなと思います、しょんぼりしてしまいましたがお母さんが、

「わざとじゃないんだから、気にしないでね。」

とやさしく言ってくれて、ほっとしました。

ミルドレッドも、みんなが本当の事をわかってくれて、いつもと同じように声をかけてくれたからほっとしたんじゃないかと思いません。私の心のモヤモヤもすっきりしました。

私は自分が失敗した時は次は同じ失敗をしないようにがんばろうと思います。家族や友達が元気がなく落ちこんでいる時は、話を聞いてあげてその話を信じてあげたいと思います。そして、やさしくはげましてあげられるような人になりたいです。

（図書名『魔女学校の一年生』）

〈講評〉

主人公ミルドレッドに寄り添い、心の中を想像しながら読み進めたことが伝わってきます。杏紗さんが主人公ミルドレッドと自分を重ね合わせて読んでから主人公の気持ちも分かったのでしょう。書きぶりにも工夫が表れています。書き出しの一文で引きつけられます。また、初めのモヤモヤを感じているという文と、読み終えてすっきりしたという文のつながりが見事です。まとめからは、主人公と一緒に成長できた様子が伝わってきます。

自分の考えと向き合つて

一戸町立奥中山小学校 六年

釜石 知奈

私は、この本を読んで自分の考えと向き合うことができました。向き合う上で考えたことが二つあります。

一つ目は強さです。私は、最初に強さとは走るのが速かったり、力持ちだったりすることだと思っていました。けれど、この本の中でヴァージルが語った「パウリートと密林のドラゴン」というお話から考えが変わりました。このお話は、ささいなことでけんかをする村人を見て、背が三センチメートルしかないパウリートが王になろうとしていました。村人はパウリートを笑いにしました。村人がけんかをしている間、パウリートは浜の砂つぶをひとにぎりずつ集めてとりでを作り、攻めてくる大きな船から村を救い、王になったというお話です。このお話から、強さとはひとにぎりずつでも砂つぶを集めてとりでを作るといふあきらめない気持ちだと思いました。また、笑われながらも、まわりの悪い状況ようを自分で直そうとする行動力も強さだと思いました。けれど、私が初めに思った走るのが速かったり、力持ちだったりすることも強さだと思いません。なので、これからは本の中でルビーという少女が言った「強さにはいろんな種類があるの」ということを考えながら生活したいです。

二つ目は人間関係です。この本には、全く性格のちがう四人が登場します。そのうちの一人に、自分の体が強いからといって他の人を自分より下だと思ひ、いたずらをするチェットという男の子がいます。ですが、そんなチェットがへびにかまれた時に、一番下に思っている難聴の女の子に助けられます。その時に私は、体が強くてい

じわるな人が、障がいをもち自分より下だと思っている人が助けるという関係がふしぎでもおもしろいと思いました。さらに、難聴という障がいをもつ人でも、私たちと同じように生活をできるといふことがわかりました。私は、今まで難聴などの障がいをもつ人は、一人で歩いたり、私たちと遊んだりするのは難しいと思っていました。けれど、難聴の女の子と霊能者の女の子とその妹は、ゆつくりと話さなければいけません。森の中を三人で楽しそうに探検できていました。このことから、少しでも工夫をすれば、自分とはちがう特ちょうをもつ人も仲良くなれるとわかりました。私は、今まで特別支援学校の人が少しおくれて勉強しているからといって下に見ていました。ですが、それはチェットがやっていることと同じことだと気づくことができて良かったと思います。

私は、自分の考えと向き合つて、直さなければいけない考えがたくさんあることがわかりました。これからは、今まで当たり前だと思っていた考えとしっかりと向き合いながら生活していきたいです。

（図書名「ハロー、ここにいますよ」）

〈講評〉

書き出しと書き終わりと題名が一貫していて、筋の通った文章です。最初に結論を述べ、大変分かりやすい展開になっており、段落の構成が見事です。また、本を読んだことにより、これまでの自分の考え方が変わったということがしっかりと書かれています。このことを、読後の自己変革ともいえることで、読書の醍醐味の一つだと思えます。「強さ」や「障がい」など、確かな気付きは、これからの知奈さんの生き方に、きつと広い視野をもたらすことでしょう。

うるさいアパートをよんで

一関市立川崎小学校 一年

ちば りと

ぼくが、このほんをよもうとおもったのは、アパートがどうしてうるさいのか、とてもきになったからです。

このほんでいちばんおもしろかったことは、すんでいるひとが、いろんなおとをだして、うるさくしているところです。うえのへやのひとが、かわったおとをだして、どんなひとがすんでいるのかクイズのようになっていたので、かんがえながらよむことができました。

うえのへやから、「ハウッハウッハウッ」ときこえたおとは、ぼくは、くしゃみをしているのかとおもいました。でも、カーボーイがおおわらいしているおとでした。ぼくは、カーボーイは、おかしなわらいかたをすることにおどろきました。

さいごに、がんこじいさんが、「はやくねろ。」

と、おこったのでアパートのぜんいんが、でんきをけし、てねてしまったのが、びつくりしました。

ぼくは、さいしょはうるさいアパートにすむのは、いやだなあとおもいました。でも、チアリーダーがおうえんし

ていたり、ひつじがひとりごとをいっていたり、たのしいうなおとがきこえてきておもしろいアパートだとおもいました。

もし、ぼくが、「うるさいアパート」にすんだら、きょうりゅうといっしょになきこえのれんしゅうをしてあそびたいです。ぼくのきょうりゅうは、

「ニャオー。」

と、かわいっこえでないてほかのへやのひとをびつくりさせたいです。どこにもあそびにいけないときは、うるさいアパートのみんなで、いろんなおとをだして、たのしくがっしょうをしてあそびたいです。うるさくしてもいいアパートは、あそびほうで、こんなアパートあったらいいなあとおもいました。

（図書名『うるさいアパート』）

〈講評〉

利翔さんは、上の階の人が少しだけ見える「絵のつくり」に着目して読み進めたのですね。絵本ならではの楽しみ方です。また、最初はうるさくて「いや」と思っていたアパートが、本を読むことを通して「うるさくしてもいいアパート」と捉え直している発想の転換に舌を巻きました。うるさいアパートはみんなで楽しめるアパートでもあったのですね。「もしぼくがこのアパートにすんだら…」と想像を広げている点もすてきな感じましたよ。

たくさんの人の手を通って

紫波町立古館小学校 四年

櫻田郁香

わたしは食べることが大好きで、食べ物にきょう味があつたので、この本を読んでみました。この本は、主人公のペロっとくんは食べ物、キャラクターが一生役に立つ食のき本を教えてくれる図鑑です。米や魚、肉、野菜、牛乳などの食べ物・飲み物を、かわいいキャラクターやマンガ、イラストで分かりやすく紹介や説明をしています。読み始めると、楽しくて、さい後まで一気に読んでしまいました。

この本で、わたしが関心をもったところは三つあります。一つ目は、お米の栄養の話です。お米さんには、お米を食べると太るよ、とよく言われます。お米には太る栄養があるんだ、エネルギーになる炭水化物だけでできているんだと思っていました。この本を読んで、お米にはビタミンや消化を助ける栄養が入っていることが分かりました。わたしは、ごはんとおかずをバランスよく食べれば、太る心配はないと分かり、安心しました。そして、米という漢字には「八十八」の手間をかけて作った作物、という成り立ちが分かり、農家の人々の苦勞を考え、お米はむだなくひとつぶ残らず食べようと思いました。

二つ目は、魚の体の持ちようについてです。サケは良く食べる魚で、切り身を見ると赤身の魚だと思っていました。ところがこの本を読んで、サケはもとは白身なのに、小さなエビやカニなどを食べて赤色を体に取りこむから赤身になる、ということが分かりました。わたしは、食べ物で体の色まで変わるんだ、と大変びっくりしました。それから、魚の身の色はきん肉の色だということも分かり

ました。すばやい動きをするカレイやマダラなどの魚は身がしまつて白っぽくなり、マグロやカツオなどのように長く泳ぐ魚は血液から酸素をたくさんもらって赤っぽくなることを初めて知りました。わたしは、好きなマグロのようにきん肉をきたえて、長く走れるようにしたいと思いました。

三つ目は、乳製品についてです。乳製品はカルシウムやタンパク質、ビタミンなど、子どもの体に必要な物がたくさん入っているということは分かっていたけど、千年以上前は、薬として使っていたことを初めて知りました。昔の人々も牛乳の栄養について気づき牛乳だけでなく、ヨーグルト、チーズ、クリーム、バターなど、色々な食べ物に加工して食べていたんだ、とびっくりしました。

わたしは、この本を読んで、食べ物はもともと命のある生き物で、たくさんの人の手を通して食卓にとどくことを知りました。食べ物には、育てた人や運んだ人の思いがたくさんつまっていて、その人々の苦勞や努力もむだにしないようにしよう、感謝して食べようと思いました。また、この本を読んで、ますます、食育にきょう味をもったので、もっともつと読んでみようと思いました。

（図書名『いただきます図鑑』）

〈講評〉

食べることが大好きで食べ物への興味もある郁香さん。びつたりの本に出合うことができましたね。文章は、米の栄養、魚の体の特徴、乳製品の三つについてまとまりを作り、それぞれの食べ物への驚きが生き生きと分かりやすく書かれています。自分が知っていることと比べながら読むことで新たに知る喜びが大きかったようです。これまで以上に食への関心を強めた郁香さん。これからも本を読んでたくさんのことを学んでください。

人間は人間、差別のない世界

軽米町立晴山小学校 五年

古 舘 和 華

私は、今まで戦争を題材にした本は、暗いし、生々しくざんこくで、悲しいことばかりなので、あまり読まなかった。しかし、五年生になり、学校の取り組みで新聞を読んで、世界のニュースにもきょうみを持ったことで、この本を手にとった。

この本は、太平洋戦争中、アメリカに住んでいた日系アメリカ人、ルーマン・ミネタさんの人生について書かれたものだった。

私は、この本の中で二つのことがとても印象に残っている。一つ目は、人種差別だ。私はこの本を読んで初めて、日系アメリカ人という言葉の意味を知った。日系アメリカ人とは、アメリカに住した日本人の事だった。アメリカでは戦争前から、二世からしかアメリカ国籍を取得できず、土地や家を所有することもできないなど、法的な差別があった。この差別は、戦争が起こったことで、てきである日本人と同じ人種であることからさらに、きびしい差別を受けることとなった。ルーマンさんは、昨日まで仲の良かった友達にとつぜん「てき」と、ののしられ住む所や、持ち物にいたるまで制げんされた。私は、ルーマンさんはアメリカ国籍を持つ二世だったはずなのに見た目だけではんだんされて、すごくショックだったろうし、何もしていない自分にてき意を向けるアメリカ人と自分をこんなじょう態に追いこんだ日本人にいかりを感じたのではないだろうかと思った。私なら自分以外を信じることができなくなりそうだ。一つ目は、日系アメリカ人が集められ生活していたしゅう容所で、荒地をたがやし、一生けん命生きようとするすがたを感じたことだ。

どんなに差別を受けてもアメリカに愛国心を示し続けることにはんたい力があることだったと思う。これをたえられたのは、一緒に畑仕事にはげむ仲間がいたからなのだろうと思う。ルーマンさんがいたしゅう容所の農作物のしゅうかく量が一番になったのは、団結力の表れと生きようとする思いの表れでもあったと思うし、がんばっていた人達への神様からのごほうびだったのではないかと思う。

私は、この本を読んで、あらためて差別のない世界が、平和へとつながるのではないかということを感じた。現代にもまだ、人種差別の問題はある。先日も、白人けい官が黒人を圧迫死させるというニュースがあり、こう議する人達がうつっていた。私は、黒人であろうと白人であろうと人間は人間なのだから、軽い命なんてないと思ってみていたのをおぼえている。ルーマンさんのように同じ人間を分類することをせず、平等に関わる人が増えたら、国の発展のためにも平和のためにもいいことだと思う。私には、差別という経験も戦争という経験もないけれど、これからの私達は、世界の人と接することが多くなると思う。だから、どんな人とも分類することなく、その人を見て付き合っていこうと思う。

〔図書名「十歳、ぼくは突然「敵」とよばれた」

〈講 評〉

これまで手にする機会がなかったという戦争を題材にした本は、和華さんの考え方に幅を与えたことが伝わります。本から得た事実は多かったのですが、その中でも特に、人種差別と辛抱強く努力した人々の2点に絞って感想を述べたことにより、和華さんの感想文に深さを生み出しています。歴史上の出来事として読んだだけではなく、今の世界の情勢や報道に関連づけ、高学年らしいまとめかたです。

アパートのひみつ、みいつけた

宮古市立山口小学校 一年

はこいし このみ

「わあ、たのしそう。いつてみたい。」

こんなアパート、みつけちゃったらわたしはぜったい、こんなふうというよ。だって、なんかいだてかわからないくらいにたかいたてものだし、いっかいごとにあかりのいろがちがって、ものすごくきれい。もし、あそびにいけるなら、わたしはむらさきのしょうめいのおへやにいきたいな。そこではチアのれんしゅうをしているんだって。わたしもチームのおそろいのウエアをきて、あたまにおおきなリボンをつけて、ポンポンをもって、大きいおにいさんにリフトしてもらいたいな。きつとたのしすぎて、じかんをわすれてしまい、あつというまにあさがきてしまいそう。

こんなたかいたてものをみつめていて、わたしはこのアパートのひみつをはっけんしちゃった。それはね、おへやのしょうめいのいろだよ。赤っぽいいろのおへやはどうぶつさん、オレンジっぽいおへやはおどっている人たちだし、むらさきっぽいおへやはなにかのれんしゅう中。そして、みずいろのおへやはねようとしている人たち。きつと、その人たちのこのころのエネルギーがそとにでたせいで、おへ

やのいろがかわってみえるんだとおもう。もしかしたら、音もつているエネルギーのいろかもしれないね。そして、それはよるでくらいからこそ、まどからもみえたんだとおもうな。

たのしいよるもいいけれど、十かいのがんこじいさんがおこるのはむりもない。なぜなら、よるはからだをやすめるじかん、ねむるじかん。はやくねるようになってうちの人やせんせいにいわれてるよ。でないと、からだもあたまも、心までこわれちゃうんだって。だからうるさいアパートになるのは、とくべつな日にとっておいて、がんこじいさんのいうとおり、しずかなアパートにしてみてね。わたしも、じいさんのいうこと、きくからね。

（図書名『うるさいアパート』）

〈講評〉

好南さんの文章は、書き出しから驚かされました。会話文から始まり、その言葉の意味を次の文で説明するというふうとは違う順序で書いている工夫が見事です。また、「このアパートのひみつをはっけんしちゃった」と、文と絵をもとにしながら想像を広げる楽しみ方している点も素敵ですね。語りかけるような文末表現、体言止め、一文ごとの短さが小気味よいリズムをつくっていて、読んでいる側が思わず引き込まれてしまいました。

魔女学校の一年生を読んで

盛岡白百合学園小学校 三年

佐々木 千紗

この本は、ある魔女学校が舞台なので生徒は女の子しかいません。私の学校と同じなので、自分の学校も魔女学校になったら面白いのになど考えながらどんどん読んでしまいました。

主人公は魔女学校の一年生のミルドレッドという女の子です。少しドジで忘れん坊だけど魔女になりたくて頑張っています。でもミルドレッドは学校で担任の先生に冷たく怒られてばかりでよく、校長室にも行かれません。他にはミルドレッドの親友モードといじめっ子のエセルがよくお話の中に登場します。

モードは、優しくアドバイスをしてくれるミルドレッドの親友で、先生に怒られる時も一緒です。

エセルは、ミルドレッドのことをいつもからかういじめっ子です。この子がずるいところは、かげでミルドレッドをからかっているのに、先生の前では、いい子にしているところです。

ミルドレッド達は、魔女学校でおまじないの授業を受けたり、ホウキにのる練習をしたりして魔女の勉強をしています。ミルドレッドも頑張っていたけど、ハロウィーンのパーティをだいなしにしてしまい、担任の先生に「明日の朝、校長室にきなさい。」と、担任の先生に怒られて自分が怒られるのがどうしてもいやなのでにげ出してしまいました。

ところがその夜、校長先生の悪い妹たちが学校中がねている間にみんなをカエルにして学校をのっとうとしたのです。その話を木のかげでこっそり聞いていたミルドレッドが、自分のおまじないで

妹たちをカタツムリにして学校のピンチを救いました。先生に呼び出されるほど魔法を失敗したミルドレッドにとって、魔法で大人の魔女たちに立ち向かうのはとても勇気のいることだと思っています。

私は、さい初ミルドレッドが少しドジだったのでカタツムリにする魔法に失敗するんじゃないかと思っていました。でも悪い魔女たちのたくらみを聞いた時、大切な学校や友達を守りたいという気持ちでいっぱいミルドレッドは、自分だつて見つければ危険なのに立ち向かうことをえらびました。そして妹達をカタツムリに変えるという自分でできるせいっぱいのことをやってのけました。私にはミルドレッドがとってもかっこよく見えました。

さい後は、ミルドレッドの勇気を学校中がほめてくれて良かったです。いつもミルドレッドを怒ってばかりの先生ですらやさしくお礼を言うてくれました。それに他にもいいことがありました。ハロウィーンのパーティのしっぱいがミルドレッドのせいじゃないことをみんなが知ったことです。もう学校のみんなはミルドレッドのことをただのドジで忘れん坊の女の子だと思っていまません。とても勇気ある女の子だと思いました。

〔図書名「魔女学校の一年生」〕

〈講評〉

主人公と同じように女の子だけの学校に通っている千紗さんは、すぐに主人公に親しみをおぼえることができたようです。大人の魔女たちに立ち向かう行動から学校や友達への思いを感じ取り、主人公を「勇気ある女の子」という言葉で表現することができました。主人公の気持ちや丁寧な考えながら読み進める中でうかんできた言葉です。出来事やお話のおもしろさだけでなく、人物像にも目を向けて感想をもつことも読書の楽しみですね。

ヴァージルと私

宮古市立田老第一小学校 六年

飛澤 咲良

偶然なんてものはない——話の中に何度も登場する言葉。この言葉は私の心に響く。しかし、この物語の主人公ヴァージルは、驚くほど内気すぎて、偶然と幸運が重ならない限り、好きな女の子に声なんてかけられないと私は思った。なぜなら、自分の家族にさえ、自分の本当の気持ちを話すことすらできないほど内気なのだ。話す内容だって、家族からの呼ばれ方が嫌だから変えてほしいっていうだけのことだ。これじゃ、好きな女の子と友達になるなんて夢のまた夢だと思った。

実は私もヴァージル寄りの性格だ。だから、ヴァージルのことがよく分かる。心に思っていることはたくさんあるのに、言うべき相手を目の前にすると言えなくなってしまう。頭の中には言いたい言葉はぐるぐる回っているけど、言った後のことを考えると怖くて、その言葉を飲み込んでしまう。時には、相手の顔をうかがい、本心ではないことを言ったりやったりしていたこともある。でも、本心ではないから、その後でもすごい後悔の思いに心がおしつぶされそうになり、涙を流したことも何度もある。ヴァージルもきっとそんな思いをしたことがあるんじゃないかと思う。

でも、彼の唯一の友達カオリは、あの言葉を繰り返す。偶然なんてものはない、と。それは一体どんな意味を持っているのだろうか。そんな疑問を持ちながら、振り返るようにもう一度ページを振り返る。すると見えてきたものがある。それは、それぞれが前を見据えて努力しているということだ。決して現状に対してあきらめたりは

していない。大きな一歩は踏み出せないとしても、自分なりの一歩を踏み出せている。ヴァージルは祖母のロラに聞いてみたり友達のカオリに相談したりしている。また、そんな彼の一生懸命さにカオリは応援する方法として、占いだのおまじないを駆使しつつ、スパーの掲示板まで使うという少々荒っぽいこともやっている。ヴァレンシアだって盲目であることを理由にせず、自分で何とかしようと努力している。こうして、それぞれが「こうなりたい」という目標を立てた瞬間から点が刻まれ、目標に向かって行動を起こすことでそこから線が伸びていく。すると、いつかその線はどこかの点にぶつかる。それこそが「偶然ではない」ということだと、私は思った。

私の人生でも、自分に起こった全てのことは偶然ではないと言えるように思う。これまでの出来事の一つ一つを偶然だと考えると、何かのせいになくなってしまおう。特に、自分にとって良くない体験ほど、そう考えてしまうことが多い。どんな出来事にも必ず原因があり結果がある。どうしたらそうなったのか、どうしたらそうならなかったのかを、日常的に考えたい。そして、嬉しい出来事もそうでない事も、自分の味方にしていきたい。

（図書名「ハロー、ここにいますよ」）

〈講評〉

題名が示すように、本の中の人物に自分の姿を重ねながら読み、ていねいに人物の気持ちを分析しています。また、登場する人物たちの人間関係にも注目し、人物たちの役割をうまく整理して自分の感想につなげています。「偶然なんてものはない」「それは一体どんな意味をもっているのだろうか」と、課題を提示し、課題を解決するように本を読み進める展開の仕方も工夫されています。

審査を終えて

第七十三回夏休み良書推薦運動読書感想文コンクールに、県内から八十一名の作品が寄せられました。言葉や文と向き合い、自分の考えや体験と照らしながら読みを広げたり深めたりしたことが作品一つ一つから伝わってきました。ご指導された先生方、ご協力いただいたご家族の皆様方に本当に感謝いたします。ありがとうございます。

今回の審査を通して感じたことや話題に挙がったことをいくつか述べたいと思います。

【低学年】

物語の展開に沿って、ワクワクしたりハラハラしたりしながら読んだことが伝わってくる作品が多かったです。「物語の内容」と「読んだときに感じたこと」の両方がバランスよく書いてあったからだと思います。「わたしだったら……」「そうだとしたら」という言葉を用いながら、自分の考えを述べている表現が印象的でした。挿絵を楽しむ姿も見られ、「絵本」特有の楽しみ方をしている点も微笑ましく感じられました。

【中学年】

お話の世界を楽しんでいることが伝わる作品や、知的好奇心をくすぐられて実際に実験してみたことが書いてある作品が多かったです。作品にひたったり、本から飛び出して実際に何かに挑戦したりする読み方をしている読み方が素敵だと感じました。また、書き出しの工夫によって読み手を引き付けるなど、構成を意識している点もよかったです。読後感から始まる書き出しや人物の言葉を引用する書き出しなども目を引きます。

【高学年】

書き出しの工夫が見られる作品が多く、構成を意識している

印象を受けました。また、本の中の人物の生き方や考え方と向き合っていることが伝わってきました。ときに自分と重ね、ときに相反しながら自分の考えを深めること書きぶりが見事です。言葉が豊富で、伝えたいことを詳しく表現することができています。主題を掘り下げようとしていたり、自分の体験などと積極的に結び付けようとしながら読む姿勢がうかがえました。

次に、さらによい作品にするために気を配るとよいことを述べます。

①規定字数（低学年800字、中高学年1200字）を存分に使いましょう。

そのためには、書きたい内容や感じたことなどを書き出してみましょう。作品のどこに、どんな考えを抱いたのかがりをはっきりさせるには、ウェビング（イメージを紙に書いてみる）を使うことも有効です。

②段落構成を意識しましょう。

書きたいことを書きだした後、何を入れたいか、どの順番で書くかよいかを考え、メモしておくとういですがね。

③主題と自分の体験や考えを結び付けてみましょう。

主題に迫るには、中心人物の「変容」に着目してみるとよいでしょう。上学年になるにつれて、人物の関係性も意識できるとさらに読みが深まります。主人公の設定や境遇についてははじめにおさえておくと、自分と比較しやすくなったり変容を捉えやすくなったりします。

皆さんの作品を通して、本を味わうことの魅力を改めて感じました。そして、一人一人の人物にふれ、心がほんわかとしたかくなりました。ありがとうございました。

審査員 永井 臣之介

たくさんのおうぼ
ご応募、ありがとう。
次も、お友だちをさそってトライしてね。



次回予告

令和2年度冬休み良書推薦運動 第74回読書感想文コンクール募集要項

- 主催** 岩手県良書推進協議会
- 協賛** 岩手県学校生活協同組合
- 後援** ・岩手県小学校長会 ・岩手県学校図書館協議会
・(一社)岩手県PTA連合会
- 課題図書** 2020年「冬休み良書推薦運動」
学年・学団対象24冊・学年共通6冊 計30冊 (10月下旬案内開始予定)
※上記以外の図書、学団(低・中・高)ちがいの場合は、審査の対象となりません。
- 用紙・字数** ・1・2年生は400字詰め原稿用紙2枚以内
・3～6年生は400字詰め原稿用紙3枚以内
・1行目に題名、2行目に学校名・学年・氏名、3行目から本文
鉛筆は、B以上の濃さのもので書く。
・課題図書名は1枚目の枠外に縦書きで明記
- 応募作品** 一人1点 (県下小学校児童)
応募作品は、オリジナルで自筆、未発表の物に限ります。
(他のコンクールとの二重応募は認めません)
・応募作品は、理由を問わず返却しません。(必要な場合はコピーをお取り下さい)
・応募作品の著作権、版権は主催者に帰属します。ただし、本人および在籍学校内での利用は妨げません。
・応募要項・課題図書名・前回までの上位入賞作品は学校生協ホームページで確認できます。
・応募された方の氏名・学校名・学年・感想文の題名・対象図書名および作品、表彰式の様子は、主催者および岩手県学校生活協同組合のホームページ、刊行物、取材報道等で公表することがあります。
- 応募締切** 2021年1月22日(金) 当日消印有効
- 応募先** 〒020-0691 岩手県滝沢市土沢220-5
岩手県学校生活協同組合 企画課 学用品内
「読書感想文コンクール係」
TEL 019(687)2246 FAX 019(687)2240
- 賞** 最優秀賞・岩手県小学校長会長賞・岩手県学校図書館協議会長賞・
岩手県PTA連合会長賞・優秀賞・入選・佳作・努力賞・
学校賞・学級賞